

中宮中だより

No. 10

平成30年(2018年)12月21日
枚方市立中宮中学校
校長 鶴島 茂樹

<終業式・・・新しい年、新しい学期に向けて>

○1, 2年生のみなさんへ

生徒会本部役員も交代し、いよいよ学校づくりの主役が3年生から2年生へとバトンタッチされた2学期でした。また1年生はあと3ヶ月で「先輩」となります。みなさんもそうだったように、新しい1年生は先輩の背中を見て成長していきます。

2年生も1年生も、これまで3年生が創り上げてきたこの中宮中学校を引き継ぎ、さらにすばらしい学校にしていく責任を負うこととなります。

各クラス、各学年で2学期の反省をしっかりとしたいと思います。数々の失敗もあったことでしょう。でも失敗することは誰にでもあるし、そもそも学校は失敗することから学び、1歩ずつ成長していくための場所なのです。

失敗をいつまでも悔やむ必要はありません。大切なことは同じ失敗を繰り返さないということです。みなさんの今後のさらなる成長を大いに期待しています。

○3年生のみなさんへ

さて、いよいよ自分の進路を決定しなければならない時期がやってきました。おそらく、みなさんの多くは、自分の希望する高校に受かるか受からないかということが一番気になっていることでしょう。もちろん、現実としてそのことは大切なことには違いありませんし、懇談の話題もそれが中心になっただろうと思います。

しかし、言うまでもなく「進路」は「行き先」だけの問題ではありません。大切なことは、そこへ行って自分は何をするのか、どんな生活をするのか、そしてそれをその先の将来へとどうつなげるのかということなのです。

例えば、**高校の評判やランクや偏差値などは、自分の「生き方」には本来関係ないのです。**そんなもので自分の価値や将来は決まりません。それを決めるのは自分自身の意志と努力なのです。そこへ行って自分がどう生活し、どう生きるのか、ということが大切なのです。冬休み、今やるべきことに全力で取り組んでください。しんどいかもしれませんがクラスや学年の仲間もみんな同じ立場です。きっと支え合えるはずですよ。

*さて、次にノーベル賞のお話をします。今年は京都大学の本庶 佑博士が生理学医学賞を受賞しましたが、今回はノーベル平和賞について書いておきたいと思います。➤

暴力にNO! 平和にYES!!

➤今年のノーベル平和賞受賞者は、イラクの女性、ナディア・ムラドさんと、コンゴ民主共和国の男性医師、デニ・ムクウェゲさんの二人でした。

ムラドさんは、「イスラム国」による大量虐殺によって、母親、兄弟を失い自らも拘束され、性暴力を受けました。彼女は、その体験を公表し、国連親善大使として、世界各地で起こる少数民族や宗教徒に対する大量虐殺、迫害、暴力、性暴力、差別、人身売買の実態を明らかにし、その解決を訴え続けてきたのです。

またムクウェゲさんは、勤めていた病院が紛争に巻き込まれ患者や職員30人以上が虐殺され、国内に別の病院を設立して、婦人科医として勤務しています。

そこでの体験は悲惨なもので、連日、大人から幼い子どもまで、暴行や性暴力による被害者が運び込まれてきました。

「この問題は手術室では解決できないことに私は思い至りました。私たちはこういった残虐な行為をもたらす根本的な原因と闘わなければならないんだと思ったのです。」と、彼は授賞式の演説で語っています。

そして、同じ授賞式で、ムラドさんはこう語りました。

「不正義や抑圧と闘うために団結しましょう。声を上げ、そして一緒に言いましょう。暴力にNO、平和にYES・・・人種差別にNO、平等とすべての人々の人権にYES、と。」・・・(参考:朝日新聞デジタル)

先日の平和講演会でもあったように、私たちは、「知る」こと、「感じる」こと、そして自分に何が出来るのか考え行動すること(「関わり」を持つこと)を改めて意識する必要があるのではないのでしょうか。

もちろん、私たち、ましてやみなさんに、世界の紛争を解決する力や手段は今のところないかもしれません。しかし、知って考えることはできるし、自分たちの身の回りに置き換えて行動すること・・・例えばこの学校という「社会」をより良くしていくことは、充分出来るはずですよ。

暴力や偏見や差別はありませんか?悪口や心無い言葉や行動で、人を傷つけていませんか?そういった行為を見逃していませんか?

まず、自分と自分たちが、「アカンことはアカン」、「正しいことは正しい」と言い合えて、「正義」が堂々と通るような社会(学校)を創っていかうとすることが最初の一步であり、基本ではないのでしょうか。

★始業式は1月7日(月)です。冬休み、何より健康を大切にして、3学期、元気にみんなでスタートしましょう!!

2学期Pick up「Try Japanese」

<p>「多くの異名を持つ魚」(ノドクロ) 8/30 朝日</p> <p>自分は魚が苦手だけど、この(記事の)表現だととてもおいしそうだと思います。おいしそうな魚なのに多くの異名をつけられ、やや残念な名前ではないかと思いました。</p> <p>でも、育てにくいから数が少しずつ減っていると思いました。早く魚を克服して食べてみておいしいと思ってみたいです。食べられるようになりたいです。(1年)</p>	<p>「台風21号」9/6 朝日</p> <p>台風21号は関西空港の機能を破壊し、連絡橋に亀裂が入り、利用客3千人超が孤立した。・・・中略・・・私の家は停電はなかったが、ベランダの屋根が飛んでいってしまった。</p> <p>こんな大きな被害が起こったのは初めてでびっくりしたけど、もしもまた災害が起こった時に行動できるよう、日頃から備えておきたい。(3年)</p>	<p>「北海道を襲った地震」9/14 朝日</p> <p>私は初めて震度6弱の大阪北部地震を体験して、とてもこわかったです。自分の家とか友達の家がつぶれたりしなかっただけでも、自分はよかったと思いました。</p> <p>北海道では家がつぶれたりして・・・中略・・・一歩外に出れば涙をこらえられなくなる、自宅に戻ることでできない人がいるときいて、自分も何か助けることがないかなと思います。(1年)</p>
<p>「無限のやりとり」(米中貿易戦争) 9/25 読売</p> <p>米国と中国が制裁、報復をやり合っていることを、童謡「やぎさんゆうびん」に例えていて、なるほどなと思いました。</p> <p>確かに、相手も自分と同じだという考え方をすると、このようなことにはならないと思います。この考え方はこの問題だけでなく、私たちも意識すべきではないかと考えました。私も、自分第一の思考はしないようにしたいです(3年)。</p>	<p>「置き勉」10/21 毎日</p> <p>私は「置き勉」するのは悪い事ではないと思っていたけど、家庭学習の妨げになるとわかり、「置き勉」には気をつけようと思いました。(小学生の)子どもたちにとったら(国の通知は)肩の荷が減り朗報だと言えるかもしれないけど、「置き勉」は認めない方がいいと思います。再来年からは英語が必修化されるなど教材が増える傾向は変わりそうに無いので、教科書のページ数を増やさない発想が必要だと感じました。(3年)</p>	<p>「肩の痛み」(置き勉) 10/21 毎日</p> <p>毎日の行き帰りはしんどい。肩や腰の痛みはひどい。小学生と同様、いやそれ以上に中学生のリュックは重たく、肩にずっしりと重みを感じる。背負ったまましゃがむと後ろへこけてしまう。しかし、「置き勉」を認めて解決したと思われては困る。私は「置き勉」は復習が出来ないし、・・・中略・・・極力したくない。</p> <p>願いは1つ。教科書を減らしてほしい。本当に無くてはならないのか考えてほしい。(2年)</p>
<p>「渋谷のハロウィーン」10/29 産経</p> <p>私が知っているハロウィーンはとても楽しいものだったけど、こんなマナーを守らない行動をする人ばかりだと全然楽しくないし怖い。楽しむのはいいが、人に何かをしたり、迷惑をかけるのは絶対によくない。</p> <p>だから、マナーを守ってみんなが楽しめるハロウィーンにしてほしい。私は、こんな、人に迷惑をかける大人にはなりたくない。(2年)</p>	<p>「無知が人を傷つける」(キノコ雲Tシャツ) 11/15 朝日</p> <p>私はこの記事を読んで、私自身、無知ゆえに人を傷つけていなかったかと不安になりました。笑って済ませるような無知ならいいけど、人を嫌な気持ちにさせるような無知は、知らなかったといえども許される事ではないと思いました。私は無知で人を傷つけないように、たくさんのお話を知ろうと思いました。(3年)</p>	<p>「場から受ける力」(ハロウィーン騒動) 12/6 読売</p> <p>このコラムを読んでたしかにそうだなと思った。周りが楽しそうだったら自分も楽しくなるし、悲しんでいたら悲しくなる。気持ち良いことから受けられる力を分け合えることはとても素敵だと思う。けれども今秋の渋谷ハロウィーンのように、素敵な力が<魔力>となって広がるのは最悪だ。次の日にボランティアで清掃活動を行っている良い力をたくさんの方が持っていることを知って、悪い事をしている人に流されず、来年には素敵な力あふれる渋谷になってほしい。(2年)</p>

★ほんの一部しか紹介できませんでしたが、改めて読み直してみると社会の出来事のふりかえりにもなり、先生たちも勉強になります。今後も紹介していきます。